

## 熊本が気づかせた人生のつらさ

ジョン ヘチャン  
CHUNG HAE CHANG

私は2017年5月から2019年2月まで韓国の軍隊に入っていました。そして二ヶ月後の4月に日本の熊本へ留学に来ました。軍隊でのつらい生活が終わったばかりだったので、自分のことをずっと偉そうに考えていました。慢心が身体を支配していたと言っても過言ではありません。そんな私でしたが、今はどこへ行って何をしようが自分を低くするようになりました。このきっかけになった熊本での自分の経験を書きたいと思いません。

日本に来たばかりの頃、ある程度日本語も話せるし、今よりもっときつい生活を2年間続けてきたから、留学生活くらい大したことないだろうと思っていました。ずっと偉ぶっていました。それから6ヶ月たった11月から、私は居酒屋でアルバイトを始めました。

アルバイトを始めたばかりの時、お客さんが言っていることはおろか、店長とスタッフ達が行っていることすら全然意味がわかりませんでした。ですから、アルバイトを始めて三週間ぐらいいは、お店に役に立つどころか、私に仕事を教える手間をかけさせていました。それから一ヶ月後、少し仕事ができるようになった時、お客様の靴に醤油をこぼしてしまう大きいミスをしてしまいました。その時はすごくお客様を怒らせてしまい、警察まで呼ぶところでした。しかし社長が、まだ入ったばかりの新入りなので、どうかお許しくださいと言って、代わりに頭を下げてくれて、一万円もお客様に償いました。私はすごく申し訳ない気持

ちになって、後で社長やスタッフみんなに謝りに行ったら、「大丈夫だよ、驚いただけだろう」と言いながら、むしろ私を労ってくれました。この醤油事件のみならず大変な時に周りの日本人の方に助けてもらったことがたくさんあります。

それらのつらい経験を通じて、私はやっと、一つ大事なことに気付きました。それは、大したことないのは、日本の留学生活じゃなくて、この私だったということ、そして、学校の先生や周りの人の世話がなければ、自分ひとりでは、何もできないということです。私は、腐っている考え方をもち、慢心に生きてきた今までの自分を、反省するようになりました。

私がもし、日本に留学に来ないで、ずっと韓国にいたら、追い詰められることも少なかったし、人生を生きるにあたって、ひとりでは、生きていけないという教訓になるつらい経験も絶対にできなかったと思います。私は日本へ来て、日本語が分かるようになったことも非常に良かったと思いますが、それよりも、自分の目を覚まさせてくれたことが、もっと、価値があることだと思っています。

これからの人生は、いくら私が有利な立場にあったとしても、決して慢心せずに、生きていこうと思っています。心の中に深く刻まれた日本のつらい経験を生かして、二度と同じ失敗は繰り返さずに、立派な人になってみせます。